

## メンバーの皆様へ

### シエラレオネ – 微粉鉄鉱石

特定の積載港からの鉱石輸送に起因するリスク（貨物の液状化の可能性、積載港での監督不行き届きを含む）に関する、当クラブサーキュラー-L153 および L185 をご参照ください。

微粉鉄鉱石の輸送についても懸念が高まっており、特にシエラレオネにおける鉄鉱山の段階的再開に伴い、同国 Pepel 港から微粉鉄鉱石を積載・輸送する船舶のリスクが案じられています。

国際 P&I グループでは、Pepel 港で積載予定の微粉鉄鉱石の一部は屋外で長期間野晒しとなっており、雨季には液状化リスクに晒されていること、また一部は低品質のため輸出に適さないと過去に判断され、長期間野晒しの状態で貯蔵されてきたことを把握しています。現在、それらの貨物は輸出に向けて、より高品質の素材とブレンドされるようになっていきます。

Pepel 港から輸送される微粉鉄鉱石が多量の水分を含む場合、液状化のリスクがあることにご注意ください。特に水分含有量が 14% 以上の場合、液状化のリスクは非常に高くなります。同地域における微粉鉄鉱石の水分含有量は、雨季には通常 13% から 16% となります。さらに乾季には、貨物の上層は比較的乾燥しているように見える一方、深層は全体的に湿気を帯びています。荷送人は、水分の排出が必要な貨物を安全に輸送可能な貨物と区別し、状態を注意深く監視する必要があります。

また荷送人より提供される、Pepel 港積み微粉鉄鉱石の貨物申告書および検査証明書には齟齬が見受けられる場合もあるため注意が必要です。これは一部の荷送人が、積載貨物の安全特性を適切に評価あるいは理解していないことを示唆しています。また缶テストによる貨物の状態チェックは、正しく判断されない場合、誤った結果を導くこともあります。貨物の積載可否を判断する際、缶内の表面水分の有無を唯一の指標とすることは避ける必要があります。

従って、Pepel 港にて微粉鉄鉱石を積載する場合、荷送人より貨物の物理的・科学的特性に関する最新かつ有効で正確な情報を入手することが肝要です。液状化の恐れがある貨物の水分含有量および運送許容水分値（Transportable Moisture Limit, TML）を検査・分析する際の要件および手順を遵守するのは荷送人の責任です。荷送人、船長それぞれが負う責任については、当クラブサーキュラー-L153 および L185 をご参照ください。

書類における齟齬や懸念点を早期に特定することで、貨物積載前のタイムリーな対応が可能となり、遅延を最小限に留めることができます。問題に余裕を持って対処するために、荷送人の貨物申告書と分析証明書を積荷役の前に

予め入手しておくことが重要です。Pepei 港における微粉鉄鉱石の積載に関し懸念がある場合は、当クラブまでご相談ください。

#### 固体ばら積み貨物の輸送 - 液状化リスク

鉱石貨物の液状化は他の輸出地域においても大きな懸念事項となっています。以前のサーキュラーにて、特定の輸出港からの鉱石貨物の液状化に伴うリスク、またそのような貨物を積載する際の対策を紹介しておりますのでご参照ください。また鉱石貨物を積載する際は下記事項にご留意いただきますようお願いいたします。

- 船長は、安全で規則に準拠した貨物のみ積載を許可するという IMSBC コード上の義務を認識する。荷送人が申告する貨物グループに関わらず、微粒子を含む全ての貨物について、当クラブサーキュラー-L153 内の“recommended precautions”を遵守する。
- 当クラブサーキュラー-L185 内の“notification requirements”を遵守する。インドネシアもしくはフィリピンでニッケル鉱石を積載するため船の制約や備船を予定している場合、または本船がそのような貨物の積載指示を受けた場合は、速やかに当クラブに通知する。

ご不明点がある場合は当クラブまでお問合せください。

尚、国際 P&I グループの全てのクラブが同内容のサーキュラーを発行しています。

※本記事の英語原文は以下リンクをご参照ください。

<https://www.steamshipmutual.com/Circulars-London/L.380.pdf>